

令和元年度 第1回 湯沢町総合戦略推進会議 要旨

日時：令和元年9月26日（木）10時

場所：湯沢町役場3階大会議室

1 座長あいさつ

■鷺見座長

次期の戦略策定にかかり座長を務めさせていただく。人口の現状や、先日行ったアンケート調査の結果を皆様と共有することが今回の会議の趣旨になる。

今後、町を担う若者たちがどのようなことを考えているか、また湯沢町を後世に残していくためにどのようなことが必要であるかを考えていきたいと思っている。

2 報告

(1) 町民アンケート結果について 資料1～4

■事務局 富沢課長

【資料1：湯沢町総合戦略策定に向けての町民意識調査結果】

(質疑等)

■林副座長

アンケート用紙は直接郵送したのか。若い世代だと、商品券等を回答後にプレゼントするなど対策をとらないと、回答率は向上しないのではないかと考える。今回、回答した少数の意見が若者全体の意見として集計されることが懸念される。

■事務局 富沢課長

紙ベースでなく、ウェブ回答ができるシステムを構築するなどを事務局側としては検討している。

■鷺見座長

ウェブ回答も検討したが、費用がかかる上、一人一回の回答を担保できるようなシステムにしなければならないのでシステム構築に時間がかかり、今回は見送った。今後もどのような方法がよいか事務局と検討していく。

■鷺見座長

【資料2：湯沢町総合戦略策定に向けての町民意識調査（16-18歳） 調査票と結果】

(質疑等)

■林副座長

総合戦略の関連事業の認知度の低さの原因分析を事務局は行っているのか。

■事務局 富沢課長

情報発信不足だと考えている。

■鷺見座長

Web や SNS を用いて情報を発信している ALL YOUTH YUZAWA や、新幹線通勤補助金の施策は認知度が高い。世代によって異なるものだと思う。

■林副座長

3月にインターンシップを毎年行っているが、湯沢町の高校生はほとんど参加しない。内部でも改善のため協議しているが、全く地元の高校生は反応してくれない。

■山口委員

この年齢層の方は、行政施策の話をして「何が書かれているかわからない。」と感じると思う。それより前の段階の小中学校で、地元の愛着を醸成させるような教育を行うことが必要だと考える。山形県では、小学校から、「この町を発展させるために、こういった仕事が必要だ。」といった教育が行われているらしい。

■綿貫委員

湯沢の高校生にとっては、卒業後町を出たいと考えることはむしろ自然なことだと思う。それよりもいつか湯沢に帰ってきたいと考えている子が5割以上いることをもっと評価してもいいと思う。

■鷺見座長

【資料3：湯沢町総合戦略策定に向けての町民意識調査（19-39歳） 調査票と結果】

(質疑等)

■林副座長

アンケート用紙はこの年齢層に対し、ランダムに郵送したのか？

■鷺見座長

この年齢層全員に送付した。

■林副座長

JRや国の機関、大手のホテルの職員のように転勤族の人数も含まれていると思うが、事務局はどう認識しているか。

■事務局 富沢課長

それほど大きな数値でないと想定している。

■樋口委員

現在、母と同居しているが、子育てなどで母の手助けがあることが大きいと感じている。いずれはマンションに夫婦で移り、私も仕事をしたいと考えているが、その際の一時預かりの制度の利用条件が、私のような状況で利用したいと考えている層の現状とマッチしていないと感じている。制度の検討段階では、その点を注目して参加していきたいと思っている。

■事務局 富沢課長

湯沢学園の子どもたちは、「大好き！湯沢」という教本を使ってこの地域の歴史・地理や特性を学んでいる。

■林副座長

学園の先生がそういった学習を教えるのではなく、我々のような地元の間が教えたほうがいいのかもかもしれない。

■鷺見座長

【資料4：湯沢町総合戦略策定に向けての町民意識調査 自由記述】
(質疑等)

■山口委員

地域コミュニティには、メリットとデメリットあると思うが、地方特有のコミュニティは、まだ湯沢には残っているのか。私は上越の小さな町の出身でそういったコミュニティがあった。

■関口委員

町内会として地域コミュニティはある。私は今期、町内会長を務めているが、非常に濃密なコミュニケーションがとれていると思っている。特に若者は、役員を務めていると仕事の転勤要請を断るほどのやる気と覚悟ができています。ただ町内会の集会に来ていただいている方は、職業に偏りがある。サービス業に従事している方はスケジュール調整が難しいようだ。

■林副座長

阪神大震災の時に西宮市にボランティアに行ってきたが、濃密な地域コミュニティが形成されている地域ほど、避難がとてもスムーズに行えており、人的被害が軽減されるということを知った。防災という意味でもこういった密な地域間のコミュニケーションをとることは大切だと考える。

■鷺見座長

アンケートでも地域活動への参加について質問しているので、性別、年齢別、地域別などで分析してみようと思う。

(2) 湯沢町人口ビジョンについて 資料5

■鷺見座長

【資料5：湯沢町人口ビジョン更新版案】

この案はあくまで試算した結果であり、町として決定したものではない。こういった状況ですよということを皆様に情報共有させていただくための資料である。

(質疑等)

■林副座長

この統計には、外国人についての要素が含まれていないので、この人口推計通りには推移していかないと思う。

■事務局 富沢課長

外国人は住民登録している方が含まれている。

■鷺見座長

外国人人口は含まれているが、昨今の流れと推計時の数値とではずれているということではないか。

■林副座長

大泉町では、外国人人口が総人口の18%を占めている。行政サービスや教育面でも対応が追い付いていないようだった。こういったことは湯沢町でも起きると考えるので、それらを踏まえて人口ビジョンに反映させていかなければならないと考える。

■鷺見座長

今後、外国人人口が急増することについてどう反映していくかは私の課題として預かる。

■林副座長

事務局に2点ほど、お願いがある。

①給食費無料化の制度設計

- ・義務教育の間のみ
- ・義務教育の間および0歳から3歳の間

②現在の奨学金制度について、湯沢町に戻ってきた場合は給付型に切り替える場合の制度設計（最低限5年居住又は5年以内にUターンするなどいくつかのパターンで）

以上2点を次回会議までに、費用負担や利用者の想定などをふまえて設計し、用意してほしい。

■山口委員

社人研の推計は何もしなければと今後このようになるという認識でよいのか。

■鷺見座長

その認識で差し支えない。

(3) 今後のスケジュールについて 資料6

■事務局 富沢課長

【資料6：湯沢町総合戦略策定スケジュール案】

(質疑応答)

■弦巻委員

だいたい会議1回の所要時間は何時間くらいを想定しているか？

■鷺見座長

2時間を想定している。超過することのないようにしたい。

3 その他

(特になし)